

ラベル等の自主製作例

嶋田忠一

Ⅰ 版下製作＝やってみれば苦痛な作業

原稿を業者に渡してしまえばやりがちな方法に比べ、手間暇のかかる作業で、完成して始めて、少し報われるそんなものである。①完全原稿を書くことが大事で、仕上がりの寸法は明記すべきである。②その原稿に、目次帳を見ながら核当する文字の番号を朱書指定する。③指定された文字を拾う。④コピーする。⑤指定の文字を切り抜く。⑥台紙に貼る（完成）。以上が版下製作作業である。

今回の展示に使用した例でいえば、①～⑥は全て担当（製作希望者）が受け持ったが、観察してみると切り貼りの段階で相当苦痛を感じたようだ。要は、やり方次第で、二・三人が分担すればもう少しスムーズになるのではないだろうか。

Ⅱ リス撮り＝覚えれば簡単な作業

自主製作の良さは、あるものをフルに使いこなすという点にある。

①マミヤプレス（スーパー23）を35mm用復写台に取り付ける。②版下に合わせて接写リングを取り付ける。③ライトを2灯45度にセットする。④F11・1秒にセットする。⑤現像液（ハイリソドル・タイプT——停止・定着液は通常のもの）を作る。⑥乾板ホルダーにフィルム（リスフィルム）を装填する。⑦ホルダーをカメラに取り付けシャッターを押す。⑧撮影後、ホルダーを外し、現像→停止→定着→水洗→乾燥する。⑨乾燥後、オペクインクで膜面のキズを修正する（終了）。

版下製作に比べ、撮影時のデータさえつかめば、通常のフィルム現像と同様一連の作業としてこなし得ると思う。当初のテスト段階での失敗を数えあげればきりが無いが、工程に従って気づいたことを次に記す。

①復写台として35mm用を使うため、無理があり、よほど注意しないとカメラが落ちる必配がある。これは専用復写台を用いることによって解決されるし、同時に③も手間がはぶける。当館が使用したリスフィルムは暗室電球（親子球）の子球だとカブリを生じないが、それに慣れるまで大分時間がかかる。現像時間は2分30秒から3分程度である。またリスフィルムの膜面確認も子球のできるの、感度の鈍いフィルムながら都合がよい。⑧のうち、定着は3～4分で済む。乾燥には、室内暖房用ヒーターや自然乾燥によっているが、ドライヤーでもあれば、好都合と言える。何れにしろ、接写リング・乾板ホルダー・リスフィルム・現像液等の購入を認めてくれた庶務の方がたの理解がなければ、なりたたなかったものと考ええる。

Ⅲ 焼き付け＝誰にもできる作業

Ⅱまで完了すれば、あとは35mmと同様の作業工程でできる。誰にでもできるとは言え、当館では全員できるわけではなく、二・三人に集中して行われるから、やろうと思えば簡単にできるということである。

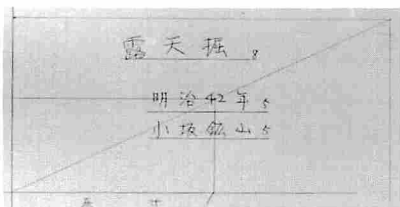
当館の引伸し機は35mm用であるために、6×9のリスフィルムを有効に使えないと言ってよい。コンデンサーレンズの交換が無理ならば、四隅のケラレに注意して、撮影時に画面を最高に使わないで6×6サイズぐらいにおさえる必要がある。これまでの例では全紙版の伸しが最大であった。これをたとえばB全ぐらいのパネルまで自主製作するとなれば、やはり新たに引き伸し機を購入しなければならないし、ロールペーパーを使えるだけの暗室の拡大もなされねばならないと思う。それにしても展示費に占めるパネル・ラベル類の割合からすれば割安になるのではないだろうか。Ⅰの段階に簡便な写植機でもあれば一層容易にできよう。

Ⅳ 反転＝好みの作業

白スキのラベルを作製するには、紙焼きの前にもう一枚フィルムを作らなければならないが、これはⅡ⑨のフィルムと未露光のフィルムとのベタ焼きを処理することによって得られる。

Ⅴ 課題として——もともと、自主製作を目的としたわけではなく、展示費が少ないのであればもっと

別な試みがあるべきではないかと思ひ、また自前でシルクスクリーンができるようになればそれなりに費用の使いみちも別に向けられると安っぽく思ったわけで、それでも試みが何とかものになったと言え言える。しかし本当に自主製作と言えるようになるには、こうした方法が全員に認められ、何人かは完全にこなせるし、しかも



原稿を書く



文字を指定する



文字パネルからシートを抜く

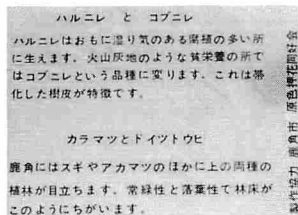


煉恋廉路露炉
 愚空偶遇屈掘
 娘名銘明盟命
 痴治恥致値遅
 0 1 2 3 4 5
 熱年念粘燃農
 天店典点展添

コピーする。□印は切り抜く文字。
(1文字2円弱につく)
一生懸命切って、貼る。



そんな面倒なこと
することないのに

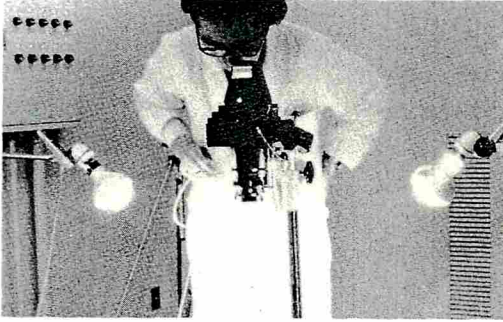


貼って版下出来。

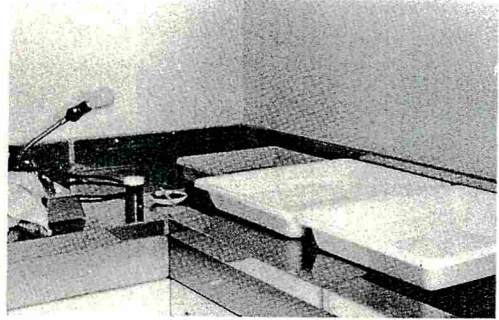
露天掘
 明治42年
 小坂鉦山

ラベル等の自主製作例

各作業に手直しが加えられなければほど遠いものであると考える。筆者には、一つのくぎりであった。これを励みとしてさらに自主製作の事例を増していきたいものである。専門家からみれば稚拙な技術(?)が筆者には、最も困難な20%を成し遂げれば、全体の80%は終えたも同然、というパレトの法則の20%であったのである。



撮影



現像準備 (暗室内)



購入したもの

露天掘

小坂鉦山
明治42年

完成した
ラベル

露天掘

小坂鉦山
明治42年



主な製作例



反転

